

まちづくり座談会 まとめ

～まちづくり協議会・若者・子育て世代～

1 まちづくり協議会 「東近江市の未来について語ろう」

日時 平成27年11月30日(月) 19:30

場所 東近江市役所

対象 まちづくり協議会関係者 25名

【定住人口増加に向けて】

①「若い人が住みやすい」、「子育てがしやすい」、「働く場がある」まちづくりが必要

- ・若い人が住みやすいまちをつかっていくため、子どもが産み育てやすいまち、働く場があるまちを望む意見が多い。また、にぎわいの創出、住宅施策、多様な暮らしに対応した地域づくり、地域への愛着やほこりの醸成が挙げられた。
- ・具体的には、保育サービスや教育内容の充実、子育て情報の提供、子どもの遊び場づくり、子育てママが働き続けることができる環境づくり、大学を卒業した人が働ける場等が挙げられた。



②「交通利便性の高い」、「にぎわいのある」まちづくりが必要

- ・鉄道やバス等の公共交通の利便性の高いまち、市街地を中心ににぎわいのあるまちをつかっていくことを望む意見が出された。
- ・具体的には、鉄道交通の充実、バス交通の充実や見直し、買い物のための車移動の支援等が挙げられた。
- ・にぎわいづくりについては、市街地での買い物環境の充実、鉄道駅周辺の再整備などの意見が挙げられた。

③「地域のつながりがある」、「誇りがもてる」まちづくりが必要

- ・地域のつながりがあり、地域の活動が活発なまち、地域に「誇り」がもてるまちづくりを望む一方、自らがまちづくりに参加する意識の醸成が必要との意見が出された。
- ・具体的には、近所づきあいが楽しいまち、住民同士が見守る・助け合う仕組みがあるまち、まちづくり協議会・自治会活動の充実、胸を張って誇れるものが言えるまちづくり等が挙げられた。



④「自然環境が豊かな」まちづくりが必要

- ・自然環境が豊かなまち、自然を大切にするまちづくりが望まれている。
- ・具体的には、植樹促進、バイオマスの活用、農園を利用した自然とのふれあい、里山ボランティア活動等が挙げられた。

⑤「医療・福祉が充実した」まちづくりが必要

- ・医療や福祉サービスが充実したまちづくりが望まれている。
- ・具体的には、医療施設の充実、高齢者福祉施設の充実、格安な介護サービスの提供等が挙げられた。

⑥「安心で安全な」まちづくりが必要

- ・災害や防犯の面から、安心・安全のまちづくりが望まれている。
- ・具体的には、災害につよいまちづくり、防災・減災力があるまちづくり、治安がよいまち、自助・共助があるまちづくり等が挙げられた。



【交流人口増加に向けて】

①豊かな自然環境の活用が必要

- ・広大な湖東平野、美しい夕日、日本コバ等鈴鹿の山々、愛知川等の清流をはじめ、自然や景観等の資源が挙げられた。
- ・具体的には、山や川の整備・開放、ハイキングコースの整備、入山料の徴収、景色を楽しめる農村・山村カフェ整備等が挙げられた。

②歴史・文化・アートの活用が必要

- ・万葉の歴史、街道、寺社、城址、古墳等の古代史、掩体壕等の多くの歴史資産、また木地師やガリ版、ヘムスロイド村等の文化資源が挙げられた。
- ・具体的には、歴史散策の道の整備、万葉短歌の全国的な募集、御代参街道や八風街道の再整備等が挙げられた。



③食・農産物の活用が必要

- ・地域で生産される野菜、近江牛、近江米、日本酒等の資源が挙げられた。
- ・具体的には、地産地消の推進、農産物の収穫・料理体験、酒米を植えて日本酒を楽しむ（酒蔵との連携）等が挙げられた。

④各資源の情報発信や資源をつなぐツアーやコースづくりが必要

- ・たくさんの資源はあるが、情報発信不足を指摘する意見が挙げられた、また各資源をつなぐコース設定やストーリーづくりの必要性について意見が出された。
- ・具体的には、観光案内版の多国語対応、DVD やインターネットを活用した観光 PR、劇団や武将隊による PR、季節で市内を楽しめるルートづくり、ウォーキングコースの整備、地域の魅力発見ツアー、観光ルートの開発等が挙げられている。

⑤観光の拠点となる場所づくりが必要

- ・農産物の販売拠点や宿泊機能の充実、食事ができる場所等、観光の拠点となる場所づくりが挙げられた。また交通の利便性を生かすことへの意見が出された。
- ・具体的には、インターチェンジ付近での農産物販売拠点の整備、食事や休憩ができる施設づくり、ホテル、空き家や農家を使った宿泊施設の整備等が挙げられた。

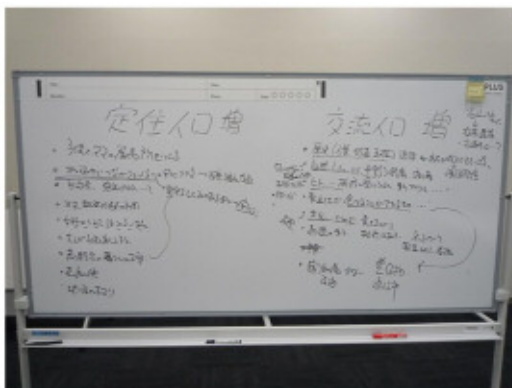


⑥「人」づくりが必要

- ・まちづくり等に対して、熱心に活動する人材育成の必要性が挙げられた。
- ・まちづくりをしている人を巡るツアー、観光ボランティアガイドの充実や育成についても意見が出された。

⑦イベントや祭りの充実が必要

- ・地域の寺社の祭りや、ジャズフェスタ等のイベント等の資源活用の意見が出された。



2 高校生 「10年後の自分の未来、まちの未来について語ろう」

日時 平成27年11月14日(土) 9:00

場所 東近江市役所

対象 市内高等学校の生徒 19名(全日制4校)

【10年後の自分はどのようになりたい】

①やりたいと思う仕事、やりがいのある仕事など、将来の仕事に夢を語る若者

- ・やりたいと思える仕事、やりがいのある仕事を楽しくやりたい、と具体的なイメージを持つ生徒が多かったが、望む仕事があるか不安であり、地元を出たいとの意見もあった。

②結婚の希望は高いが、結婚できないと考えている若者もいる

- ・結婚を望む声は多く、子どもは1人から3人を希望する等の結婚観が出された。
- ・一方、家族を養うことができないので結婚はしないとの意見もあった。

③地域には愛着をもっているが、将来は地元に残ることにこだわる若者は少ない

- ・地域の自然やコミュニティ等、地域には愛着をもち、親との近居等を望む意見もあったが、進学先や仕事の都合等で地域から出ていくとの声も目立った。



【10年後の自分の姿を実現するためにまちに必要なことは】

①地域コミュニティを大切にすることが必要

- ・地域のつながり、人と人とのつながりを評価し、将来も地域コミュニティが大切であるといった意見が出た。
- ・災害時の助け合いや高齢者と子どもの交流等の大切さについての意見もあった。
- ・また、地域で活躍できる場を求める意見もあった。

②子育て環境の充実が必要

- ・子どものため、外で安全に遊ぶことができる公園の整備やスポーツができる場所、地域で子どもを見守る環境、幼稚園や保育所の充実等、子育て環境の充実を望む意見があった。

③休みの日・時間に楽しむことができる場所が必要

- ・商業施設やゲームセンター、動物園等、休みの日や休みの時間に楽しむことができる場所を望む意見があった。



④ほどよい「田舎感」を保つことが必要

- ・商店の少なさや交通利便性が低いことが挙げられる一方、自然環境の豊かさや農業等について評価されており、むやみな都市化を望まず、JRの新快速が止まる「田舎」に住みたい、といった意見があった。

⑤医療や介護サービスの充実が必要

- ・子どもの医療費支援や小児科病院の充実等、子どもの医療サービスの充実の他、高齢者福祉施設の充実、バリアフリーのまちづくりなどについて意見があった。

⑥公共交通の充実が必要

- ・鉄道やバスなど公共交通の現状や近江鉄道の料金の高さへの不満がある一方、JRをもっと活用してはとの意見があった。



3 子育て世代 「将来子どもが東近江市に住むならどんなまちを望むか語ろう」

日時&場所

- | | |
|----------------------|-----------|
| ①平成27年11月12日(木)10:00 | 八日市保健センター |
| ②平成27年11月17日(火)10:00 | 蒲生支所 |
| ③平成27年11月27日(金)10:30 | 能登川保健センター |

対象 子育て世代(母親) 15名

【このまちで子育てをしている中で感じること】

①子どもの遊び場や子どもを連れ出かけることができる場所が少ない

- ・近所に公園が少ない、また公園があったとしても管理が十分でなかったり、遊具が古い。
- ・乳児が屋内で遊ぶことができる場がほしい。
- ・食事等、子ども連れで出かけることができる場所が少ない。そうした情報が不足している。



②保育サービスの充実が必要

- ・保育園が少なく、希望通りの園に入れなくてやむを得ず待機児童がいる状況が不安である。

③母親同士の交流の場や子育てに関する情報が不足している

- ・子育て支援センター等の場を活用した母親同士の交流が盛んな状況について評価されている。
- ・交流の場の情報や子育てに関する情報が不足している。

④子ども医療・健康づくりの制度は評価されているが、小児科や産婦人科が不足している

- ・乳児の7か月相談や子どもの医療費助成制度等について評価されているが、地域によって小児科や産婦人科が少ない。

⑤公共交通の利便性が低い

- ・自然環境の豊かさについては評価されているが、鉄道やバスの利便性が低く、自動車がないと不便。

⑥地域コミュニティは必要だが、地域の役が集中すると大変

- ・近所づきあいが良いことは評価されているが、若い世代が少ない地域では、地域の役等が大変で、子育てや家族の時間がとられるので、時代に合わせて変化させていくことが必要。

⑦周囲に子どもが少なく、子どもが集団生活になじめるか不安

- ・地域によっては子どもが少なく、学校等に行った際に集団生活になじめるか不安。



【将来お子さんにはどうなってほしい】

①地元に住み続けるには働く場所が必要

- ・子どもが地元に住み続けるには働く場が必要。
- ・一方で、工場等はたくさんあり、仕事内容にこだわらなければ仕事の場はある。

②交通利便性が必要

- ・近江鉄道やJR等で一定の利便性はあるが、公共交通がさらに便利になれば、学校や仕事等の選択肢が増える。

③自然環境と都市環境が調和した地域づくりが必要

- ・自然が豊かな環境について評価されている。一定の利便性追求は必要だが、豊かな自然環境の下で、子どもがのびのびと育てて欲しい。

④安心して暮らせる治安のよい地域づくりが必要

- ・周辺の市町と比べると治安が良いとの評価があり、子どもを学校等にも安心して通わせるためにも、安心して暮らせる治安の良い地域づくりが必要。



【子育てを卒業した後に自身でやってみたいこと】

①仕事への復帰や資格取得等を望む意見が目立つ

- ・仕事への復帰、資格の取得や仕事と学びが両立する環境、男女問わず柔軟な働き方ができる環境を望む。

②仕事をするため、保育サービスの充実を望む意見が多い

- ・働きたいと思っても、待機児童がいる状況で希望通りの保育所に入れないので、保育サービスの充実を望む。
- ・職場への託児機能の付加等について、行政の支援を望む。

③地域コミュニティへの貢献を望む意見も出された

- ・地域のつながりの大切さから、子どもや高齢者が一緒にご飯を食べることができる場を地域で運営したい。

